

ガウディア新聞

2020 spring



使える力
gaudia

発行:株式会社ガウディア
〒224-0003
神奈川県横浜市都筑区中川中央1-26-10
TEL: 0120-528-728
(平日/10:00~19:00)

男の子の育て方

「なにをするにもゆっくり。もっと早く行動できないかしら」

「怒るとすねるし、褒めると調子に乗るし！どういう声かけすればよいの！？」

「前から見ても後ろから見てもやる気のスイッチが見つからない。どこにあるの！？」

「わが息子が宇宙人に見える。やることなすことわけがわからない！」



女の子のお友達は落ち着いているのに、なん
でうちの子はじっとしていられないの？

男の子をお持ちのご家庭から寄せられるお言葉です。親の思うようにいかないのが男の子の子育て。頭を抱えているお父さん・お母さんも多いのではないでしょうか。

男の子の特徴と育て方について、そのポイントを長年男子教育の現場にいらっしゃる清水先生にお話いただきました。

男の子は変わります。幼かった男の子が成長し、大人になっていきます。
その間は土台作りです。心を育てることが非常に重要な時期です。



聖学院中学校・高等学校
副校長
運営統括部長
清水 広幸 先生

聖学院中学校・高等学校では、900名の男子をお預かりし、6年間一環教育をしています。たくさんの男子をお預かりしている中で考える男の子の特徴が3つあります。

①とにかくゆっくり

中学1年生の男の子に「6年生のとき、1日お母さんに何回、『早く』って言われていた？」と聞くと、平均値24回（笑）。朝から、早く起きなさい！早く、早く、早く、早く…。できるお母さんほど、男の子のゆっくりさを理解できません。イライラしますよね…。

②プライドが高い

男の子はとてもプライドが高いものです。

そしてそのプライドをつぶすのは母親だといわれています。

「どうせダメでしょ」

「この前も言ったでしょ」

「だってできないでしょ」

男の子は面白いもので、そのプライドの高さをお父さんには見せない子が多いのです。

お母さんのみに見せます。しかも、忙しくてバタバタしている時間に急に、「僕、医者になろうと思うんだよね」などと言います。「今忙しいんだから変なこと言わないで！」とつっこんぐんに対応してしまうと途端に否定された感じ、「どうせダメなんだ」。

言ってもしかたない」と思いこんでしまうのです。そういうときは、余裕を持って、うまく対応してあげてください。

「そうなのね、そういう風に思うんだ。もっとちゃんと聞きたいんだけど、後で時間取るからゆっくり聞かせてね」と言っていたいと思います。男の子に代わってぜひお願ひします。

③頑固

男の子は、時間の使い方が下手、順番めちゃくちゃや、やり方もめちゃくちゃな面があります。

聖学院中学校では4教科（国語/算数/社会/理科）入試をしているのですが、4教科全部が得意なお子様はほとんどいません。

中には、1教科は得意だけど他の3教科は苦手…という子もいます。

大人が考えると、低い教科を上げれば点数が上がると思うのですが、男の子は好きなことしかやりたくない。言っても聞かない、とにかく頑固です。

でも、男の子の成長は、スイッチが入るとすごいんです。それまで励ます、待つ、信じる。これができると一番良いですね。

私はいつも男の子を飛行機に例えて話をします。ジャンボジェットの場合、滑走路が4000メートルあります。そのうち、3000メートル滑走しているんです。3000メートル滑走しないと最後に機首を上げて飛び立たないんです。「男の子の成長は飛行機のような感じですよ」と申し上げています。

滑走している間は高度0メートル。だけどその間にどうせ飛べないからダメとあきらめてしまったらスピードは落ちてしまう。

そうではなく、滑走している時間がとても必要で、その間、一生懸命励ましてあげてください。やがてこの飛行機は飛ぶんだ、お子さんは必ず成長するんだ、ということを子どもに伝え、励まし続けていただきたいと思います。



男の子は変わります。
幼かった男の子が成長し、大人になっていきます。

その間は土台作りです。

心を育てることが非常に重要な時期です。

体はおいしいご飯を食べれば大きくなります。

心はどうやって育つのでしようか？

放っておいたら育ちません。

私から保護者様へのメッセージです。

大人が一生懸命やっている姿をお子様に見せてください。子どもたちは真似るんです。学びは楽しいということを教えられるのは、大人なのです。

次のような癖はありませんか？

言葉の癖→すぐに否定語を言っていますか？

思考の癖→どうせこの子はダメなんだと思っていませんか？

行動の癖→ご家庭は落ち着いていますか？

学びは楽しいということを教えられるのは、大人なのです。



子どもの心を育てる関わり方をお伝えします。

自己肯定感を持てない子は、

・自信がない ・怒りっぽい ・習慣がない

そういう子どもたちは学習に向きにくいという傾向にあります。

ですから、学習以前の問題部分を意識して男の子を育ていかなければいけません。

親子関係が良いご家庭のお子さんは成長します。

お父さん・お母さんの目線はいかがでしょうか？

やさしい目で見られるお子さんは安定しています。

それは心がうさせるのです。

目は口ほどにものをいいます。

お父さん・お母さんの心に余裕・ゆとりが無いと子どもに対して厳しいことばかり、否定的なことばかり言ってしまいます。それはクセになってしまっているので、保護者さま自身も気がついていないんです。心が育つと、自然としつけにつながります。

子どもの心を育てる関わりとして、3つのコミュニケーション方法をご紹介します。

●繰り返しをしてください。（ミラー効果）

男の子が『勉強したくないんだ』と言ったら、「何言つての、勉強しなさい！」と言わず、「勉強したくないんだね」と言ってあげてください。

「僕はいまそんなことを言ったんだ」と気づきます。

●見た行動を言葉にしてあげてください。

「新聞取ってきてくれたんだね」

●具体的に褒めてあげてください。

「お手伝いをしてくれてありがとう、助かったよ」

そして、「あなたは私の宝なのよ、大切な存在なのよ」と伝えてあげてください。

愛情の言葉が届いていると、子どもはぶれません。

一番力を入れたいことは、学習習慣、生活習慣を付けることです。この習慣がありさえすれば、子どもはどんどん伸びていきます。

でも、習慣はそう簡単には身に付きません。1週間、2週間、1ヶ月、3ヶ月忍耐して、習慣になっていくのです。学習習慣が身についている子はものすごく伸びます。どうか、保護者さまも習慣がつくまで、忍耐ください。褒めて、持ち上げて、励まし続けてあげてください。

小さな男の子はとてもかわいい、愛すべき存在ですが、子育ては本当に大変ですね。でも、大きくなると頼りになる存在なのも男の子。自分より背の高くなった息子に大きな重い荷物を持ってもらうのは、男の子の親しか味わえない幸せかもしれません。そんな未来を夢見ながら、「あなたは私の宝物。大切な存在なのよ」とやさしい目で伝え続けましょう。大丈夫、今は高度0メートルの滑走路でもいつか飛べばよいのです！

明るく元気に男の子の育児を楽しみましょう。

次号は「女の子の育て方」について特集します。

聖学院中学校・高等学校



東京都北区にある男子校。
キリスト教精神に基づくオンラインリーラン教育を実施している。
人間力×思考力×国際力が教育の3つの柱。

聖学院中学校・高等学校

〒114-8502 東京都北区中里3-12-1

TEL: 03-3917-1121(代表) FAX: 03-3917-1123